<特別研究>

母子同室制に関する研究

—第2報　妊婦の母性意識と母子同室制—

副所長　高橋悦二郎
研究第1部　堀口貞夫・千賀悠子
研究第2部　宮崎　叶・加藤忠明
研究第5部　網野武博・萩原英敏
研究協力者　藤井　仁（都立築地産院）

Ⅰ　はじめに

昨年度の研究では，わが国の病院・産院等における母子同室制の実態について調査し，対象 993施設のうち何らかの形で母子同室制を採り入れている割合が53.9%にのぼっていること，その形態としては，母のベッドサイドにコットをおくものが母子同室制の86.4%を占めていることが明らかになり，また母子室に移す時期，母子室に入室する際の規則，感染の経験，さらに母子同室制の長所・短所などについて分析し，考察を加えた。

今年度の研究では，母子相互作用を強化し，母性意識の確立とも深いかかわりをもつと考えられる母子同室制について，妊婦がどのような意識をもっているかをはじめ妊婦の母性意識について調査し，考察を加えた。

Ⅱ　調査対象および調査方法・期間

調査は，表1に示した9か所の病院，産院，保健所，助産院等（東京3か所，地方6か所）に依頼し，各施設を利用した妊婦に対し，外来受診時または母親学級受講時にアンケート調査用紙を配布し，妊婦が直接記入する方法で行なった。

調査期間は，1981年10月～12月である。

対象となった妊婦数は 1,205人，このうち有効回答数は，1,031（85.6%）であった。その初・経産別及び東京・地方別にみた内訳は表2のとおりである。

表1　調査対象

	調査依頼先	依頼数	有効回答数	有効回答率
東京	愛育病院	200	200	100.0%
	築地産院	200	129	64.5
	墨田産院	110	102	92.7
	小計	510	431	84.5
地方	山梨県—白根町*1	80	67	83.8
	静岡県—富士宮市*2	35	34	97.1
	〃—焼津市*3	30	29	96.7
	兵庫県—柏原町*4	100	88	88.0
	香川県*5	200	190	95.0
	大分県*6	250	192	76.8
	小計	695	600	86.3
計		1,205	1,031	85.6

*1 保健所に依頼，*2 助産院依頼，*3 助産院に依頼
*4 保健所に依頼，*5 県庁に依頼，*6 県庁に依頼

Ⅲ　調査内容

アンケート調査の内容は，基本的調査項目（年齢，学歴，職業，親との同居，出産の経験，妊娠週数）6問，及び，母性意識にかかわる調査項目（妊娠・出産に対する感情・意識，母子の接触や育児への意識，結婚・女性に関する意識等）30問である。

アンケート調査項目の詳細は末尾別紙のとおりである。

表2　初・経産別，東京・地方別回答者数

	計	初産	経産	（2回目）	（3回目）	（4回目）	（5回目）
東京	431	219 50.8%	212 49.2%	(170) (80.2)	(34) (16.0)	(8) (3.8)	(0) (0.0)
地方	600	381 63.5%	219 36.5%	(141) (64.4)	(71) (32.4)	(6) (2.7)	(1) (0.5)

Ⅳ　調査結果

1　基本的事項

出産の経験別（初産，経産）及び地域別（東京，地方）に妊婦の年齢，妊娠週数，学歴，職業および親との同居についてみた結果は表３～表７のとおりである。

(1)　年齢（表３）

今回，調査対象となった妊婦の年齢は，初産，経産群ともに地方よりも東京の方が高い。初産群の平均年齢は東京27.5歳，地方25.5歳であり，経産群の平均年齢は東京30.0歳，地方28.7歳である。

表２にみられたとおり，経産の場合今回の出産が３回目の人の割合は，東京よりも地方の方が高いが，経産群全体の平均年齢においても，地方群が 1.3歳若く，出産年齢の地方差が明瞭である。

表３　年齢

			～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～
初産※	東京	N	1	36	130	46	6	0
		%	0.5	16.4	59.4	21.0	2.7	0
	地方	N	3	148	194	34	2	0
		%	0.8	38.8	50.9	8.9	0.5	0
経産	東京	N	0	16	77	104	14	1
		%	0	7.5	36.3	49.1	6.6	0.5
	地方	N	1	19	113	78	7	1
		%	0.5	8.7	51.6	35.6	3.2	0.5

※……x_2＝45.17，P＜0.000

(2)　調査時の妊娠週数（表４－１）

調査時における妊娠週数をみると，東京では妊娠後期（28週以降）の人の割合が高く，地方では，前，中，後期に分散している。そこで結果の分析にあたり，妊娠週数別に全項目の特徴をみたが，明瞭な特徴や差はみられなかった。

なお，結婚後の年数についてみたところ，初産群では地方が６か月～１年未満が約半数を占め，東京では１年～２年未満が30.1％と最も多く，全体的に結婚してから妊娠する迄の期間は地方の方が有意に短かい傾向がみられた（表４－２）。

表４－１　妊娠週数

			～15週	16～27	28～
初産	東京	N	31	68	120
		%	14.2	31.1	54.8
	地方	N	76	188	117
		%	19.9	49.3	30.7
経産	東京	N	33	45	134
		%	15.6	21.2	63.2
	地方	N	75	67	77
		%	34.2	30.6	35.2

表４－２　結婚後の年数

		６月未満	６月～１年未満	１～２年未満	２～３年未満	３～４年未満	４～５年未満	５～10年～	10年以上	N.A
初産	東京	24	58	66	32	10	6	19	0	4
		11.0％	26.5	30.1						
	地方	72	189	76	22	9	5	5	2	1
		18.9％	49.6	19.9						

(3)　学歴（表５）

学歴別にみると，短大・大学卒以上とくに大学卒以上の高学歴の人の割合が東京の方が有意に高く，とくに初産群にその特徴がみられる。

表５　学　　歴

			中学	高校	専門学校	短大	大学以上	その他
初産※1	東京	N	5	81	22	49	61	1
		%	2.5	37.0	10.0	22.4	27.9	0.5
	地方	N	15	215	30	40	2	3
		%	3.9	56.4	7.8	10.5	0.5	0.8
経産※2	東京	N	8	101	26	38	39	0
		%	3.8	47.6	12.3	17.9	18.4	0
	地方	N	14	129	27	35	11	3
		%	6.4	58.9	12.3	16.0	5.0	1.4

※1……x^2＝38.98　P＜0.000
※2……x^2＝23.76　P＜0.003

(4)　職業の有無（表６）

調査時において何らかの職業に就いている人の割合は，初産，経産群ともに地方の方が高く，とくに経産群では40.2％と最も高い割合となっており有意な差がみられた。その仕事の内容では，いずれの場合も事務職が最も多く，次いで専門的・技術的職業となっている。とくに初産群では，職業に就いている人の約80％が自宅外で働き，約70％の人がフルタイムである。

表６　職業の有無

			有　り	無　し	無回答
初産	東京	N	73	145	1
		%	33.3	66.2	0.5
	地方	N	140	240	1
		%	36.7	63.0	0.3
経産※	東京	N	36	175	1
		%	17.0	82.5	0.5
	地方	N	88	129	2
		%	40.2	58.9	0.9

※……x^2＝28.99　P＜0.000

(5) 親との同居（表7）

親と同居している割合は，地方の方が東京より有意に高く，とくに経産群では51.6%の人が親と同居している。東京においても，初産群より経産群の方が同居する割合は高くなっている。

また，別居している場合でも，いずれもその70%以上の人は，実家と自宅とが日帰り圏以内に位置している。

表7　親との同居・別居

			夫の親と同居	自分の親と同居	別　居	無回答
初産※1	東京	N	23	11	176	9
		%	10.5	5.0	80.4	4.1
	地方	N	121	23	229	8
		%	31.8	6.0	60.1	2.1
経産※2	東京	N	30	17	160	5
		%	14.2	8.0	75.5	2.4
	地方	N	99	14	97	9
		%	45.2	6.4	44.3	4.1

※1……$x^2=36.87$　$P<0.000$

※2……$x^2=53.68$　$P<0.000$

2　妊婦の母性意識

以下に，同じく出産の経験別及び地域別に，妊婦の妊娠・出産に対する感情・意識，母子の接触や育児への意識，結婚・女性に関する意識等についてみていく。

(1) 妊娠に気がついた時の感情（表8）

自分が妊娠していることに気がついた時うれしかったと答えた人の割合は，経産群より初産群が，東京よりも地方が高かったが，有意な結果ではなかった。地方では，うれしかったと答えた人は初産群では約80%と高いが，経産になると，うれしかったがとまどいがあったと答える人も東京と同じく30%以上に増加している。

表8　妊娠に気がついた時の感情

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	153	59	4	2	1
		%	69.9	26.9	1.8	0.9	0.5
	地方	N	304	71	6	0	0
		%	79.8	18.6	1.6	0	0
経産	東京	N	129	66	12	5	0
		%	60.8	31.1	5.7	2.4	0
	地方	N	135	71	10	2	1
		%	61.6	32.4	4.6	0.9	0.5

1．うれしかった　2．うれしかったが，色々な事情・理由でとまどいがあった　3．色々な事情・理由で困った気持になった　4．産みたくなかったので，うれしくなかった

困ったり，うれしくなかったと答えた人は経産群でやや増加しているが，非常に少数であった。

(2) 妻の妊娠に対する夫の反応（表9）

妊娠していることを初めて夫に告げた時の夫の反応をみると，妻よりも夫のよろこびの反応はいずれの場合も高く，経産群においても80%前後の割合でみられた。

表9　妻の妊娠に対する夫の反応

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	197	18	2	2	0
		%	90.0	8.2	0.9	0.9	0
	地方	N	344	31	4	2	0
		%	90.3	8.1	1.0	0.5	0
経産	東京	N	167	32	7	5	1
		%	78.8	15.1	3.3	2.4	0.5
	地方	N	176	29	10	3	1
		%	80.4	13.2	4.6	1.4	0.5

1　うれしそうで，とてもよろこんでくれた
2　うれしそうだったが，色々な事情・理由で心底からよろこんではいないようだった。
3　今のところ産む予定はなかったので，うれしそうではなかった
4　とまどい，困っているようだった

(3) 望んでいた妊娠（表10）

今回の妊娠を望んでいたと回答した人の割合は，初産，経産群ともに東京より地方の方が高く，したがって望んでいなかった人の割合は東京が地方よりやや高い傾向がみられたが，有意な差ではなかった。経産になるにしたがって望んでいた人よりも，計画的妊娠を望んでいる割合は高くなり，とまどいがみられた人の割合は有意に高くなっている。

表10　望んでいた妊娠

			1	2	3	4	無回答
初産	東京※1	N	146	24	42	5	2
		%	66.7	11.0	19.2	2.3	0.9
	地方※2	N	279	34	67	1	0
		%	73.2	8.9	17.6	0.3	0
経産	東京※1	N	100	44	46	21	1
		%	47.2	20.8	21.7	9.9	0.5
	地方※2	N	110	43	47	16	3
		%	50.2	19.6	21.5	7.3	1.4

1．望んでいた　2．計画通りだった　3．まだ望んでおらず，今回は早すぎた　4．産むつもりはなく，望んでいなかった

※1……$x^2=24.74$　$P<0.000$

※2……$x^2=51.82$　$P<0.000$

(4) 妊娠中の健康状態（表11）

妊娠中の健康状態は，全体的に良好であるが，経産群の約10%の人が悪いと答えている。

表11　妊娠中の健康状態

			1	2	3	4
初産	東京	N	49	155	14	1
		%	22.4	70.8	6.4	0.5
	地方	N	80	272	29	0
		%	21.0	71.4	7.6	0
経産	東京	N	48	142	21	1
		%	22.6	67.0	9.9	0.5
	地方	N	33	165	19	2
		%	15.1	75.3	8.7	0.9

1．非常に良い　2．大体良い　3．どちらかというと悪い　4．非常に悪い

(5) 妊娠や出産についての不安・心配（表12・図1）

妊娠中の不安・心配についてみると，初めての出産を迎える場合の方が高く，東京では53.0%，地方では45.7%の人が不安・心配であると答えているが，その割合は，経産になると10%以上低下している。

地方よりも東京の方が不安・心配ありの割合が高いが，有意ではない。

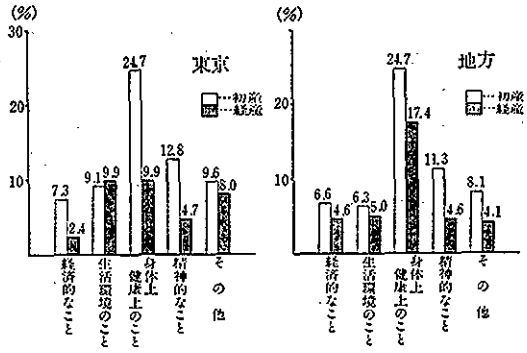
不安・心配を内容別にみると，初産では，身体上・健康上のことが東京，地方ともに最も多く，24.7%であり，次いで精神的なことが11%以上の人にみられる。経産になると，東京では身体上・健康上のことが減少し，生活環境のことと同じくほぼ10%になるのに対し，地方では，身体上・健康上のことが17.4%と相変らず高く，他の不安・心配と比較して特徴的である。

表12　妊娠・出産についての不安・心配

			1	2	3	無回答
初産	東京	N	42	57	116	4
		%	19.2	26.0	53.0	1.8
	地方	N	87	115	174	5
		%	22.8	30.2	45.7	1.3
経産	東京	N	72	52	82	6
		%	34.0	24.5	38.7	2.8
	地方	N	102	44	70	3
		%	46.6	20.1	32.0	1.4

1　ない
2　あまり考えたことはない
3　ある

図1　不安・心配の内容



(6) 赤ちゃんについての不安・心配（表13・図2）

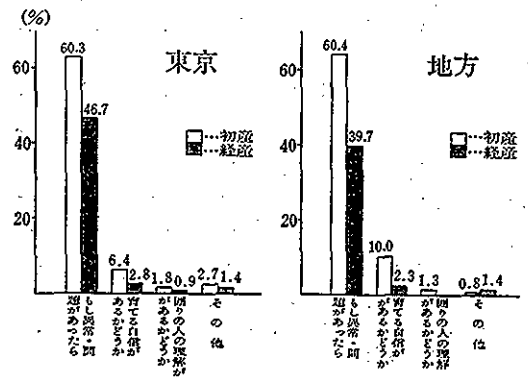
生まれてくる赤ちゃんのことについての不安や心配がある人の割合は，妊娠・出産についてのそれよりも10%以上高くなっている。初産群では，全体の3分の2以上の人が何らかの不安・心配をもっており，経産群ではそれが減少しているものの東京では49.5%，地方では43.4%の人が不安・心配であると答えている。不安・心配の内容としては，生まれてくる子どもにもし異常・問題があったらというものが非常に多く，その殆んどを占めている。

表13　生まれてくる赤ちゃんについての不安・心配

			1	2	3	無回答
初産	東京	N	29	41	144	5
		%	13.2	18.7	65.8	2.3
	地方	N	61	65	252	3
		%	16.0	17.1	66.1	0.8
経産	東京	N	64	41	105	2
		%	30.2	19.3	49.5	0.9
	地方	N	83	36	95	5
		%	37.9	16.4	43.4	2.5

1．ない　2．あまり考えたことはない　3．ある

図2　不安・心配の内容



(7) 妊娠中の夫の気づかい（表14）

妊娠中，夫が何かと気をつかってくれる割合は，初産群では90％を越えている。よく気をつかってくれると回答した人は，東京，地方ともに半数を越えているが，経産になるとその割合は半減している。

表14 妊娠中の夫の気づかい

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	122	79	11	4	3
		%	55.7	36.1	5.0	1.8	1.4
	地方	N	197	170	9	4	1
		%	51.7	44.6	2.4	1.0	0.3
経産	東京	N	61	109	22	19	1
		%	28.8	51.4	10.4	9.0	0.5
	地方	N	57	115	23	21	3
		%	26.0	52.5	10.5	9.6	1.4

1．よく気をつかってくれる
2．どちらかというと気をつかってくれる
3．どちらかというと気をつかってくれない
4．あまり気をつかってくれない

(8) 予定している出産の場所（表15図3）

どういうところでの出産を予定しているかをみたところ，東京では病院，産院が殆んどを占めているが，地方ではその割合は45％前後であり，診療所・開業医，助産所の方が多く初産，経産群ともに半数を超えている。これは東京の調査対象者が特定の病院，産院を利用している妊婦に限られており，地方では特定されていないという条件が大きく影響している。

いずれにしても，地方では比較的小さく，あるいは個人的つながりが強いと思われるところでの出産を予定している傾向がみられる。

表15 予定している出産の場所

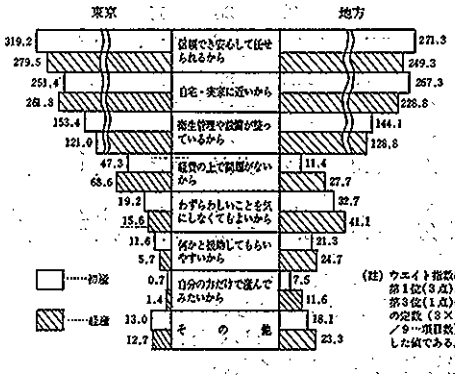
			病院	産院	診療所・開業医	母子健康センター	助産所	無回答
初産※1	東京	N	119	90	4	0	1	5
		%	54.3	41.1	1.8	0	0.5	2.5
	地方	N	172	4	170	8	22	5
		%	45.1	1.0	44.6	2.1	5.8	1.3
経産※2	東京	N	79	129	2	0	0	2
		%	37.3	60.8	0.9	0	0	0.9
	地方	N	95	2	64	15	40	3
		%	43.4	0.9	29.2	6.8	18.3	1.4

※1……$x^2=248.23$　$P<0.000$

※2……$x^2=237.98$　$P<0.000$

出産の場所を選定した理由をみてみると，信頼でき安心して任せられるというものが非常に多く，東京・地方ともに第1位を占めている。第2位としては，自宅，実家に近いことがあげられている。また，衛生管理や設備が整っていることは第3位にあがっている。第4位が東京では，経費上の理由をあげ，地方ではわずらわしさのないことをあげている。また，地方の方が理由がやや分散しているのは，調査対象の条件の差が関係していると思われる。

図3 出産の場所を選定した理由のウエイト指数



(9) 希望する分娩の方法（表16）

出産にあたって，どのような分娩の方法を望むかについてみたところ，初産群において，東京よりも地方の方が苦しくても自然な状態で生みたいと望む人の割合は有意に高かった。しかし，出産の経験のある人ほど，無痛分娩よりも自然な状態で生みたいと望む人の割合が増加しているが有意な差ではない。また，病院などの方針に任せたいと思う人は，地方よりも東京に多い。

表16 希望する分娩の方法

			1	2	3	4	5	無回答
初産※	東京	N	1	37	78	90	7	6
		%	0.5	16.9	35.6	41.1	3.2	2.7
	地方	N	0	67	184	115	15	0
		%	0	17.6	48.3	30.2	3.9	0
経産	東京	N	4	22	94	78	10	4
		%	1.9	10.4	44.3	36.8	4.7	1.9
	地方	N	1	25	116	66	8	3
		%	0.5	11.4	53.0	30.1	3.7	1.4

※……$x^2=22.39$　$P<0.001$

1．薬物による無痛分娩を望む
2．薬物によらない無痛分娩を望む
3．苦しくても自然な状態で産みたい
4．病院などの方針に任せる
5．特にない

(10) 出産時の夫の立ちあい（表17）

出産の時に夫が立ちあうことを希望する人は，東京では初産，経産群ともに約3分の1に近い。一方，地方では立ちあいを希望する人は初産の39.1%から経産の32.0%へと減少しており，夫の意志に任せる人の割合が高くなっている。しかし，これらには有意な関連はみられなかった。いずれにしても，夫の意志に任せる人が40%台を占めている。

表17　出産時の夫の立ち合い

			1	2	3	4	5	無回答
初産	東京	N	24	48	28	11	104	4
		%	11.0	21.9	12.8	5.0	47.5	1.8
	地方	N	39	110	55	18	156	3
		%	10.2	28.9	14.4	4.7	40.9	0.8
経産	東京	N	20	46	37	15	92	2
		%	9.4	21.7	17.5	7.1	43.4	0.9
	地方	N	21	49	32	12	102	2
		%	9.6	22.4	14.6	5.5	46.6	1.4

1．是非立ちあってほしい
2．できれば立ちあってほしい
3．できれば立ちあってほしくない
4．絶対立ちあってほしくない
5．夫の意志に任せる

(11) 出産直後からの赤ちゃんとの接触（表18）

出産直後できるだけ早くからずっと自分の赤ちゃんと一緒にいたいと希望する人の割合は，地方が東京よりも有意に高い結果がみられ，とくに初産では47.0%の人が希望しており，いっしょにいたい人の割合では，初産でも東京が61.6%であるのに対し，地方は77.7%にのぼっている。この相違は経産群にもみられる。しかし経産の場合には，全体的にいっしょにいたいと希望する割合は低下し，地方においても時々会えばよい，あるいは必要な時だけ会えればよい，とくに会わなくてもよいとする人の割合は21.9%から41.1%へと倍増しており，初産群と経産群の間には有意な相違がみられた。

(12) 母子別室の場合の赤ちゃんとの接触（表19）

入院中，母と子が別室の場合に，自分の赤ちゃんとどの程度いっしょにいたいかをみたところ，上述の傾向と同じくできるだけいっしょにいる機会を多く求めている人は東京よりも地方が有意に多かった。東京では，初産の場合病院などの方針に任せる人が3分の1以上と最も多かったが，経産になると授乳のときだけでよいとする人の割合が30.2%と最も多くなっている。

地方においても，経産の場合は，授乳のときだけでよいとする人の割合は初産の場合よりも非常に高くなっている。その一方で，東京，地方ともに，経産の場合でも，できれば日中はいっしょにいて授乳や世話をしたいとする人の割合は初産よりも高くなっている。

表18出産直後からの赤ちゃんとの接触

			1	2	3	4	5	無回答
初産※1	東京※3	N	62	73	57	19	5	3
		%	28.3	33.3	26.0	8.7	2.3	1.4
	地方※4	N	179	117	52	28	4	1
		%	47.0	30.7	13.6	7.3	1.0	0.3
経産※2	東京※3	N	31	52	92	35	1	1
		%	14.6	24.5	43.4	16.5	0.5	0.5
	地方※4	N	74	53	51	35	4	2
		%	33.8	24.2	23.3	16.0	1.8	0.9

1．できるだけ早くからいっしょにいたい
2．自分が疲れていたり，赤ちゃんの健康や感染が心配だが，いっしょにいたい
3．自分が疲れていたり，赤ちゃんの健康や感染が心配なので，時々会えばよい
4．退院するまで必要な時だけ会えばよい
5．退院するまで病院に任せて，とくに会わなくてもよい

※1……$x^2=28.38$　$P<0.000$
※2……$x^2=31.40$　$P<0.000$
※3……$x^2=30.38$　$P<0.000$
※4……$x^2=27.02$　$P<0.001$

表19　母子別室の場合の赤ちゃんとの接触

			1	2	3	4	5	無回答
初産	東京	N	17	60	17	41	76	8
		%	7.8	27.4	7.8	18.7	34.7	3.7
	地方	N	18	121	50	76	114	2
		%	4.7	31.8	13.1	19.9	29.9	0.5
経産	東京	N	64	53	9	54	30	2
		%	30.2	25.0	4.2	25.5	14.2	0.9
	地方	N	33	51	18	61	47	9
		%	15.1	23.3	8.2	27.9	21.5	4.1

1．授乳のときだけでよい
2．授乳のときだけでなく，赤ちゃんに話しかけたり世話をするときもほしい
3．1日に何回も会うときがほしい
4．できれば日中はいっしょにいて授乳や世話をしたい
5．病院などの方針に任せる

(13) 生後約4週間の栄養法（表20—1．2，図4）

生後約4週間の栄養法については，母乳にしたいと考えている人の割合は，東京で約95%，地方で約92%と初産，経産群ともに非常に高い。とくに東京では，是非母

乳にしたいと考えている人は初産で61.6%，経産で64.2%と高い割合でみられる。

妊娠中においては，人工乳，混合乳を考えている人は非常に少ない。したがって，その理由をみても，母乳を考える理由としてあげられているものが殆んどであり，自然である，栄養上よい，スキンシップがはかられるが上位を占め，逆に仕事，PCBなどの汚染，乳房の形などの理由はきわめて少ないか，全くない。とくに東京では，自然であるを理由にあげた人の割合は75%を越えている。

なお，妊婦自身が赤ちゃんの頃どのような栄養法であったかをみたところ，20～30代の妊婦は母乳で育てられた人は東京70%前後，地方76%前後であった。

表20—1　生後約4週間の栄養法

			1	2	3	4	5	6	無回答
初産	東京	N	136	72	5	2	0	1	4
		%	61.6	32.9	2.3	0.9	0	0.5	1.8
	地方	N	212	142	24	0	0	2	1
		%	55.6	37.3	6.3	0	0	0.5	0.3
経産	東京	N	136	66	5	1	1	2	1
		%	64.2	31.1	2.4	0.5	0.5	0.9	0.5
	地方	N	122	80	13	2	0	1	1
		%	55.7	36.5	5.9	0.9	0	0.5	0.5

1．是非母乳にする　2．なるべく母乳にしたい
3．母乳，人工乳の混合乳を考えている　4．なるべく人工乳にしたい　5．是非人工乳にする　6．どちらでもよい

図4　栄養法の理由

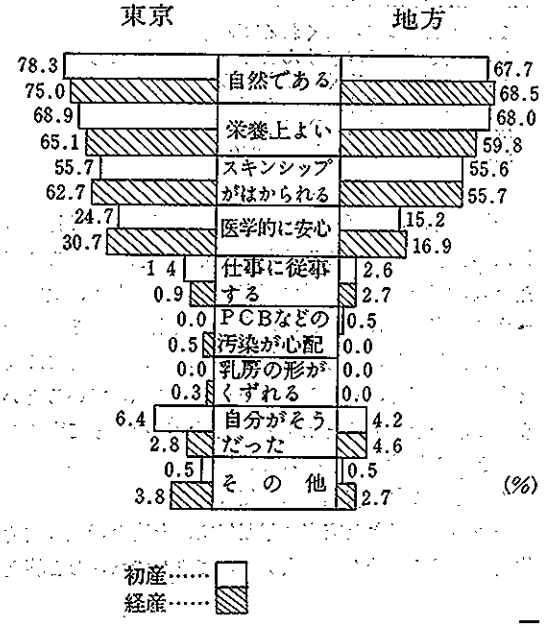


表20—2　妊婦自身の乳児期の栄養法

			母乳	混合乳	人工乳	わからない	無回答
初産	東京	N	149	35	24	8	3
		%	68.0	16.0	11.0	3.7	1.4
	地方	N	284	59	24	12	2
		%	74.5	15.5	6.3	3.1	0.5
経産	東京	N	149	32	21	8	2
		%	70.3	15.1	9.9	3.8	0.9
	地方	N	170	25	19	5	0
		%	77.0	11.4	8.7	2.3	0

(14)　授乳の仕方（表21）

赤ちゃんの授乳の仕方については，全体に要求尊重派が規則尊重派よりも多く，経産の場合には，要求尊重派は東京が69.8%，地方が70.7%と，その割合が一層高くなっている。

表21　授乳の仕方

			1	2	3	4	5	無回答
初産	東京	N	46	94	24	40	12	3
		%	21.0	42.9	11.0	18.3	5.5	1.4
	地方	N	83	157	41	78	19	3
		%	21.8	41.2	10.8	20.5	5.0	0.8
経産	東京	N	45	103	15	37	10	2
		%	21.2	48.6	7.1	17.5	4.7	0.9
	地方	N	75	80	13	42	6	3
		%	34.2	36.5	5.9	19.2	2.7	1.4

1．規則的に与えるよりも，子どもの要求にあわせて与えたい
2．どちらかというと，規則よりも要求を大切にしたい
3．どちらかというと，要求よりも規則を大切にしたい
4．きちんと時間を決めて，規則的に与えたい
5．どちらでもよい

(15)　深夜の赤ちゃんへの応じ方（表22）

深夜，疲れて眠っている時赤ちゃんがぐずったりひどく泣いたりした場合にどのように応じようとしているかをみると，実際に未経験（初産）の場合は，東京地方ともにできるだけ起きると答えた人が最も多く50%を越えている。経産群では，起きてあやそうとする人の割合はやや減少する。しかし東京と地方では傾向が異なり，東京では，すぐ起きてあやすと答える人が44.8%と最も多くなっている。

(16)　赤ちゃんの排便やおむつの処理（表23）

赤ちゃんの排便やおむつの処理については，養育経験の差が顕著にみられ，経産群では何のためらいもなくできると答えた人は約90%を占め，汚ないとかいやな気持

がおきることは著しく減少する。この経産歴による相違は有意であった。

表22　深夜の赤ちゃんへの応じ方

			1	2	3	無回答
初産	東京	N	77	114	25	3
		%	35.2	52.1	11.4	1.4
	地方	N	141	193	44	3
		%	37.0	50.7	11.5	0.8
経産	東京	N	95	88	28	1
		%	44.8	41.5	13.2	0.5
	地方	N	78	108	31	2
		%	35.6	49.3	14.2	0.9

1．すぐ起きてあやしたりする
2．眠っていたり疲れていると起きられない時もあるだろうが，できるだけ起きる
3．あまり長かったり，ひどい時は起きる
4．むしろ起きないでいる

表23　赤ちゃんの排便等の処理

			1	2	3	無回答
初産	東京※1	N	142	64	9	4
		%	64.8	29.2	4.1	1.8
	地方※2	N	191	14	6	1
		%	90.1	6.6	2.8	0.5
経産	東京※1	N	191	14	6	1
		%	90.1	6.6	2.8	0.5
	地方※2	N	196	17	3	3
		%	89.5	7.8	1.4	1.4

1．何のためらいもなくできる
2．汚ないとかいや気持はおきるだろうが，しなければいけない
3．しなければいけないと思うが，あまり手をかけないですむのならそれにこしたことはない
4．汚ないし，いやな気持がおきるので自分ではできない

※1……$x^2=41.56$　$P<0.000$
※2……$x^2=43.22$　$P<0.000$

(17)　夫の育児への参加（表24—1・2）

夫が育児に参加することについて，妊婦自身の考えと夫の考えの双方をみたところ，妻としては90%前後の人が，夫の参加を求めている。しかし，その内容では，全面的に参加すべきであると考える人は，経産の場合にはやや低下し，夫への期待や育児参加意識は低下する。この傾向は育児参加に対する夫の考え方をみていくと，一層明らかである。妻が夫に何らかの育児参加を求めている割合は90%前後であるのに対し，夫が全面的にあるいは必要な時にすすんでやるだろうという積極的参加を考え，期待する人の割合は，初産群の74%前後から経産群の51%前後へと低下している。頼めばやってくれるだろうという，あまり期待しない人の割合がとくに多くなっており，この傾向は有意であった。

表24—1　夫の育児への参加（妊婦の考え）

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	50	145	0	23	3
		%	22.8	65.5	0	10.5	1.4
	地方	N	100	250	1	30	0
		%	26.2	65.6	0.3	7.9	0
経産	東京	N	41	157	0	12	2
		%	19.3	74.1	0	5.7	0.9
	地方	N	34	160	2	21	2
		%	15.5	73.1	0.9	9.6	0.9

1．全面的に参加すべきである
2．いつもではなく，必要な時には夫に参加してもらいたい
3．自分だけでやり，夫には余計な心配をかけたくない
4．夫の意志に任せる

表24—2　夫の育児への参加（夫の考え）

			1	2	3	4	無回答
初産	東京※1	N	24	134	52	1	8
		%	11.0	61.2	23.7	0.5	3.7
	地方※2	N	44	247	79	2	9
		%	11.5	64.8	20.7	0.5	2.4
経産	東京※1	N	10	102	90	7	3
		%	4.7	48.1	42.5	3.3	1.4
	地方※2	N	8	105	97	4	7
		%	3.7	47.0	44.3	1.8	3.2

1．全面的にやってくれるだろう
2．必要な時にはすすんでやってくれるだろう
3．頼めばやってくれるだろう
4．夫はやってくれないと思う

※1……$x^2=26.93$　$P<0.001$
※2……$x^2=45.67$　$P<0.000$

(18)　妊婦自身の母親からの愛情体験（表25）

妊婦自身が，こどもの頃母親から愛情をもって育てられたかどうかについてみると，全くそう思っていると答えた人の割合は，初産群の東京が83.1%を占め，次いで経産群の東京が78.3%と，地方より東京の方がその割合が高い。しかし，地方でも初産群76.6%，経産群71.7%と全体的に高く，どちらかというとそう思っているという人の割合を含めると殆んどの人が愛情をもって育てられたという体験意識を持っている。

(19)　育ってきた家庭の雰囲気（表26）

妊婦が育ってきた家庭の雰囲気は，上述の母親の愛情体験と同じく，殆んどの人が，なごやかであったと答え

ているが，とてもなごやかであったと答えている人の割合は，東京，地方ともに，初産群より経産群に高かった。

なお，今回の調査対象となった妊婦のきょうだいの状況をみると，全般にひとりっ子は非常に少なく，きょうだいの数は経産群の方が初産群よりやや多く，4人以上のきょうだいをもつ人の割合は，初産群では東京14.6%，地方9.2%，経産群では東京20.3%，地方16.0%となっている。

表25　妊婦自身の母親からの愛情体験

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	182	31	2	1	3
		%	83.1	14.2	0.9	0.5	1.4
	地方	N	292	79	4	2	4
		%	76.6	20.7	1.0	0.5	1.0
経産	東京	N	166	42	1	2	1
		%	78.3	19.8	0.5	0.9	0.5
	地方	N	157	54	4	2	2
		%	71.1	24.7	1.8	0.9	0.9

1．全くそのように思っている
2．どちらかというとそう思っている
3．どちらかというとそうは思っていない
4．全くそのように思っていない

表26　育ってきた家庭の雰囲気

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	102	86	25	3	3
		%	46.6	39.3	11.4	1.4	1.4
	地方	N	169	175	32	5	2
		%	44.4	45.4	8.4	1.3	0.5
経産	東京	N	89	97	22	3	1
		%	42.0	45.8	10.4	1.4	0.5
	地方	N	80	112	25	0	2
		%	36.5	51.1	11.4	0	0.9

1．とてもなごやかであった
2．どちらかというと，なごやかであった
3．どちらかというと，あまりなごやかではなかった
4．全くなごやかではなかった

⑳　乳児，幼児との接触経験（表27）

結婚するまでに赤ちゃんや小さい子と接触したり，世話をした経験についてみると，接触したり，世話をした経験のない人は，初産では4分の1以上，経産では3分の1以上の人にみられた。むしろ初産群よりも平均年齢の高い経産群の方の割合が高かった。日常生活を通してよく接触や世話をしたことのある人は全体の5分の1に満たない。

㉑　家庭生活や育児についての結婚前の期待（表28）

結婚前に家庭生活や育児に期待や夢を持っていた人の割合は，地方が東京よりも高く，初産群において有意な差がみられた。東京では4分の1以上の人があまり期待や夢を持っていなかったと答えている。

表27　乳児・幼児との接触経験

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	15	41	104	55	4
		%	6.8	18.7	47.5	25.1	1.8
	地方	N	34	57	190	98	2
		%	8.9	15.0	49.9	25.7	0.5
経産	東京	N	12	35	91	71	3
		%	5.7	16.5	42.9	33.5	1.4
	地方	N	26	30	84	77	2
		%	11.9	13.7	38.4	35.2	0.9

1．保母，幼稚園の教諭，看護婦などの仕事をとおして，よく赤ちゃんや小さい子を世話した経験がある
2．日常生活をとおして，よく赤ちゃんや小さい子を世話した経験がある
3．少しではあるが，赤ちゃんや小さい子を世話した経験がある
4．赤ちゃんや小さい子と接触したり，世話をした経験がない

表28　家庭生活・育児への結婚前の期待

			1	2	3	4	無回答
初産※	東京	N	35	122	55	4	3
		%	16.0	55.7	25.1	1.8	1.4
	地方	N	102	202	68	8	1
		%	26.6	53.0	17.8	2.1	0.3
経産	東京	N	32	117	57	5	1
		%	15.1	55.2	26.9	2.4	0.5
	地方	N	57	108	48	5	1
		%	26.0	49.5	21.9	2.5	0.5

1．強く持っていた
2．どちらかというと持っていた
3．どちらかというとあまり持っていなかった
4．全く持っていなかった
※……$x^2=13.47$　$P<0.010$

㉒　現在の結婚への期待（表29）

現在の結婚を夫ともども望んでいた人の割合は，初産群では東京，地方ともに89%を越え，夫と妻のどちらかが望んでいなかったと答えた人は7%程度にすぎない。経産群では東京が88.7%，地方が83.6%とやや差がみられ，地方では望んでいなかった人の割合は初産群に比べ13.7%と高くなっている。

㉓　子どもへの好悪感（表30）

子どもが非常に好きである人の割合は，東京よりも地

方の方が高く，また経産群よりも初産群に高くみられた。この経産歴による差は有意であった。子どもが好きではないという妊婦は，経産群では東京に18.9%，地方に13.7%の割合でみられた。

一方，妻と夫で比較すると，全体的に夫の方が子ども好きの傾向がみられ，初産群では東京が93.2%，地方が96.4%ときわめて高い割合であり，経産群でも地方が94.5%，東京が93.4%という高さであった。子ども好きではない夫は5%前後であり，妻よりもきわめて少ない。

表29　現在の結婚への期待

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	196	6	9	2	6
		%	89.5	2.7	4.1	0.9	2.7
	地方	N	342	4	25	5	5
		%	89.8	1.0	6.6	1.3	1.3
経産	東京	N	188	5	14	1	4
		%	88.7	2.4	6.6	0.5	1.9
	地方	N	183	6	16	8	6
		%	83.6	2.7	7.3	3.7	2.7

1．夫ともども非常に望んでいた
2．自分は望んでいたが，夫は必ずしもそうではないかもしれない
3．自分はあまり望んではいなかったが，夫は望んでいた
4．夫ともども別に望んでいたものではなかった

表30　子どもへの好悪感
（妊婦）

			1	2	3	4	無回答
初産	東京※	N	74	113	25	4	3
		%	33.8	51.6	11.4	1.8	1.4
	地方	N	158	190	30	1	2
		%	41.5	49.9	7.9	0.3	0.5
経産	東京※	N	48	123	40	0	1
		%	22.6	58.0	18.9	0	0.5
	地方	N	72	115	30	0	2
		%	32.9	52.5	13.7	0	0.9

※……$\chi^2=14.32$　$P<0.010$

（夫）

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	114	90	12	0	3
		%	52.1	41.1	5.5	0	1.4
	地方	N	225	142	12	1	1
		%	59.1	37.3	3.1	0.3	0.3
経産	東京	%	82	116	11	2	1
		N	38.7	54.7	5.2	0.9	0.5
	地方	N	101	106	9	2	1
		%	46.1	48.4	4.1	0.9	0.5

1．非常に好きである
2．どちらかというと好きな方である
3．どちらかというと好きな方ではない
4．好きではない

㉔　育児と労働（表31）

家で子どもを育てることと社会に出て働くことを対比させ，どちらを望むかをみたところ，地方の経産群を除いて，完全育児重視派が最も多く，育児重視派に属する人をすべてあわせると，地方では初産群80.1%，経産群76.7%という高さであり，一方東京では初産群69.4%，経産群75.0%であった。両立派に属する人は，東京では初産群が24.2%と経産群の18.9%よりも高く，地方ではいずれも17%である。また労働重視派に属する人は，東京では初産群 4.6%，経産群 5.7%，地方では初産群 2.9%，経産群 5.5%と，やや経産群の方が高い。

表31　育児と労働

			1	2	3	4	5	無回答
初産	東京	N	92	60	53	8	2	4
		%	42.0	27.4	24.2	3.7	0.9	1.8
	地方	N	174	131	63	10	1	2
		%	45.7	34.4	16.5	2.6	0.3	0.5
経産	東京	N	91	68	40	12	0	0
		%	42.9	32.1	18.9	5.7	0	0.5
	地方	N	80	88	38	11	1	1
		%	36.5	40.2	17.4	5.0	0.5	0.5

1．家で子どもを育てることが大切なのでそうしたい
2．家で子どもを育てることが大切だが，現実には働くこともあるだろう
3．家で子どもを育てることも，社会に出て働くこともともに大切なので，実際にも両方を考えていきたい
4．社会に出て働くことが大切だが，現実には家で子どもを育てていくことも考えていかなければならないだろう
5．社会に出て働くことが大切なのでそうしたい

㉕　女性であること（表32）

自分自身が女性であることについて，よかったと思い，誇りに思っている人の割合は初産群では東京39.6%，地方43.8%，経産群ではそれよりも低く東京33.5%，地方38.4%となっており，いずれも地方の方が高い。女性でよかったと思っている人をあわせるといずれも86%前後を占めている。女性でない方がよかったと思つている人は，経産群が初産群よりもやや多く，東京，地方ともに約12%となっている。

表32　女性であること

			1	2	3	4	無回答
初産	東京	N	87	102	21	2	7
		%	39.7	46.6	9.6	0.9	3.2
	地方	N	167	166	40	7	1
		%	43.8	43.6	10.5	1.8	0.3
経産	東京	N	71	113	21	6	1
		%	33.5	53.3	9.9	2.8	0.5
	地方	N	84	104	23	4	4
		%	38.4	47.5	10.5	1.8	1.8

1．女性でよかったし，誇りに思っている
2．どちらかというと，女性でよかったと思っている
3．どちらかというと，女性でない方がよかったと思っている
4．女性でない方がよかったと思っている

3　妊婦の母子同室制への意識

今回のアンケート調査の中で，妊婦の母性意識と関連させて，以下のような質問により母子同室の希望の有無をたずねた。

「現在，病院によってはお母さんとの最初の出合いを大切にし，その後の母子間の接触や交流をできるだけ配慮するため，入院中お母さんと赤ちゃんが同じ部屋にいる体制をとっている場合があります。これを母児同室制といいますが，この母児同室制についておたずねします。」

この質問に対する回答の結果は表33のとおりである。

表33　母子同室の希望

			1	2	3	4	無回答
初産※1	東京※3	N	23	151	17	24	4
		%	10.5	68.9	7.8	11.0	1.8
	地方※4	N	66	269	22	24	0
		%	17.3	70.6	5.8	6.3	0
経産※2	東京※3	N	12	118	28	52	2
		%	5.7	55.7	13.2	24.5	0.9
	地方※4	N	46	120	21	28	4
		%	21.0	54.8	9.6	12.8	1.8

1．その体制を是非望みたい
2．その体制で，母児の健康を十分に配慮してくれるのであれば，それを望む
3．その体制では，母児の健康を十分に配慮してくれるかどうか心配であり，あまり望まない
4．自分もくつろげず，疲れるだろうから別室を望む

※1……$x^2=15.99$　$P<0.005$
※2……$x^2=28.70$　$P<0.000$
※3……$x^2=21.07$　$P<0.001$
※4……$x^2=22.90$　$P<0.001$

これによれば，「その体制で母児の健康を十分に配慮してくれるのであれば，それを望む」という条件付きで希望する人の割合が最も高く，初産群では東京68.9%，地方70.6%，経産群ではこれより低く，東京55.7%，地方54.8%であった。これよりもさらに積極的にその体制を是非望みたいと希望する人は，地方が東京よりも高く，初産群では東京10.5%に対し，地方17.3%，経産群では東京が5.7%と低下しているのに対し，地方では21.0%とさらに高くなっている。

このように，母子同室を望む人の割合は経産群よりも初産群が高く，東京よりも地方が高い傾向がみられ，これらの差は有意であった。母子同室を望まぬ人は，初産群が地方12.1%，東京18.8%に対し，経産群は地方22.4%，東京37.7%と約2倍である。

経産群について，過去の母子同室の経験の有無別に，母子同室の希望をたずねたところ，表34のとおりの結果となった。過去に母子同室を経験したことのある経産婦は東京よりも地方に多い。地方では，表38のそれと比較すると，母子同室経験者の母子同室を望む割合は全体のそれよりも高く，未経験者の望む割合は全体のそれよりも低かった（経験者78.5%，全体75.8%，未経験者67.9%）。東京においても同じ傾向がみられ，（経験者77.3%，全体61.4%，未経験者51.2%）この傾向は有意であった。しかし，母子同室を望まない人のうち，とくに別室を望む人は，母子同室経験者のうち，地方7.7%に対し，東京14.3%と2倍の割合でみられた。

表34　経産婦の母子同室の経験の有無と母子同室の希望

経験＼今回		是非望む(1)	条件付で望む(2)	あまり望まない(3)	別室を望む(4)	計
東京※1	有	6	59	7	12	84
		7.1%	70.2	8.3	14.3	100.0
	無	6	57	21	39	123
		4.9%	46.3	17.1	31.7	100.0
地方※2	有	30	61	5	8	104
		28.8%	58.7	4.8	7.7	100.0
	無	16	54	14	19	103
		15.5%	52.4	13.6	18.4	100.0

※1……$x^2=14.50$　$P<0.005$
※2……$x^2=13.43$　$P<0.005$

4　妊婦の母性意識と母子同室の希望との関係

以上の結果に示された妊婦の母性意識と，母子同室の希望との関係についてクロス分析したところ，つぎの内容については，有意な連関がみられた。

(1)　希望する分娩の方法と母子同室（表35）

分娩の方法については，初産の場合よりも経産の場合に，苦しくても自然な状態で産みたいと希望する人の割合が多いが（表16），母子同室の希望との関係についてクロス分析したところ，まだ出産経験を持たない初産群において，東京，地方ともに有意な連関がみられた。即ち，苦しくても自然な状態で産みたいと希望する人は，母子同室を強く望み，無痛分娩でも薬物によらない方法でそれを希望する人は，条件付きであっても母子同室を望んでいる傾向がある。この傾向は，出産を経験している妊婦では明瞭にみることはできなかった。

(2)　出産直後からの赤ちゃんとの接触と母子同室（表36）

出産直後から赤ちゃんといっしょにいたいと希望する人は，経産群よりも初産群に，東京よりも地方に多くみられたが（表18），その希望は母子同室への希望ときわめて類似した意識であり，初産，経産群及び東京，地方のいずれにおいても，非常に高い程度で有意な連関がみら

れた。すなわち，赤ちゃんといっしょにいることを希望する人は，母子同室を希望し，時々又は必要な時だけ会えばよいとする人は，母子同室をあまり望まなかったり，母子別室を希望する傾向が強い。

表35　希望する分娩の方法と母子同室
（初産）

母子同室＼分娩方法		苦しくても自然な状態で	薬物によらない無痛分娩	薬物による無痛分娩	病院などに任せる	とくにない
東京※1	是非望む	17 73.9	2 8.7	0 0.0	4 17.4	0 0.0
	条件付で望む	56 37.6	24 16.1	0 0.0	66 44.3	3 2.0
	あまり望まない	1 6.3	7 43.8	0 0.0	7 43.8	1 6.3
	別室を望む	4 16.7	4 16.7	1 4.2	12 50.0	3 12.5
地方※2	是非望む	41 62.1	9 13.6	0 0.0	15 22.7	1 1.5
	条件付で望む	123 45.7	48 17.8	0 0.0	89 33.1	9 3.3
	あまり望まない	13 59.1	0 0.0	0 0.0	6 27.3	3 13.6
	別室を望む	7 29.2	10 41.7	0 0.0	5 20.8	2 8.3

※1……$x^2=42.65$　$P<0.000$
※2……$x^2=28.09$　$P<0.001$

表36　出産直後からの赤ちゃんとの接触と母子同室
（初産）

母子同室＼赤ちゃんとの接触		できるだけ早くから一緒	心配な点あるがいっしょに	時々会えばよい	必要な時だけでよい	病院に任せる
東京※1	是非望む	21 91.3	2 8.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	条件で望む	41 27.2	64 42.4	33 21.9	11 7.3	2 1.3
	あまり望まない	0 0.0	3 17.6	11 64.7	3 17.6	0 0.0
	別室を望む	0 0.0	4 16.7	13 54.2	5 20.8	2 8.3
地方※2	是非望む	58 87.9	6 9.1	1 1.5	1 1.5	0 0.0
	条件で望む	114 42.5	102 38.1	38 14.2	13 4.9	1 0.4
	あまり望まない	3 13.6	5 22.7	9 40.9	5 22.7	0 0.0
	別室を望む	4 16.7	4 16.7	4 16.7	9 37.5	3 12.5

※1……91.86　$P<0.000$
※2……144.38　$P<0.000$

（経産）

母子同室＼赤ちゃんとの接触		できるだけ早くから一緒	心配な点あるがいっしょに	時々会えばよい	必要な時だけでよい	病院に任せる
東京※1	是非望む	9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	条件付で望む	21 17.8	46 39.0	39 33.1	12 10.2	0 0.0
	あまり望まない	1 3.6	3 10.7	18 64.3	5 17.9	1 3.6
	別室を望む	0 0.0	0 0.0	34 65.4	18 34.6	0 0.0
地方※2	是非望む	40 87.0	5 10.9	0 0.0	0 0.0	1 2.2
	条件付で望む	32 26.7	43 35.8	27 22.5	15 12.5	3 2.5
	あまり望まない	1 4.8	4 19.0	13 61.9	3 14.3	0 0.0
	別室を望む	1 3.6	0 0.0	11 39.3	16 57.1	0 0.0

※1……$x^2=103.34$　$P<0.000$
※2……$x^2=135.53$　$P<0.000$

(3)　母子別室の場合の赤ちゃんとの接触と母子同室

同じように，入院中母と子が別室の場合の赤ちゃんとの接触の希望（表19）と母子同室とは，初産，経産群及び東京，地方のいずれにおいても有意な連関がみられた。すなわち，母子別室の場合であっても，できるだけ赤ちゃんと一緒にいたいと希望する人は，母子同室を希望し，それ程望んでいない人は母子同室も希望してない傾向がある。

表37　母子別室の場合の赤ちゃんとの接触と母子同室
（初産）

母子同室＼別室の時の接触		日中いっしょにいて世話したい	1日に何回も会いたい	授乳だけでなく世話したい	授乳のときだけでよい	病院に任せる
東京※1	是非望む	13 59.1	2 9.1	6 27.3	0 0.0	1 4.5
	条件付で望む	28 19.0	13 8.8	45 30.6	8 5.4	53 36.1
	あまり望まない	0 0.0	2 11.8	4 23.5	3 17.6	8 47.1
	別室を望む	0 0.0	0 0.0	5 20.8	6 25.0	13 54.2
地方※2	是非望む	33 50.0	7 10.6	13 19.7	1 1.5	12 18.2
	条件付で望む	41 15.4	39 14.6	97 36.3	7 2.6	83 31.1
	あまり望まない	0 0.0	2 9.1	6 27.3	5 22.7	9 40.9
	別室を望む	2 8.3	2 8.3	5 20.8	5 20.8	10 41.7

※1……$x^2=51.24$　$P<0.000$
※2……$x^2=82.92$　$P<0.000$

（経産）

母子同室＼別室の時の接触		日中いっしょにいて世話したい	1日に何回も会いたい	授乳だけでなく世話したい	授乳のときだけでよい	病院に任せる
東京※1	是非望む	8 66.7	0 0.0	3 25.0	0 0.0	1 8.3
	条件付で望む	37 51.4	7 5.9	34 28.8	19 16.1	21 17.8
	あまり望まない	5 17.9	1 3.6	9 32.1	10 35.7	3 10.7
	別室を望む	4 7.8	1 2.0	6 11.8	35 68.6	5 9.8
地方※2	是非望む	19 45.2	6 14.3	12 28.6	3 7.1	2 4.8
	条件付で望む	38 32.5	11 9.4	28 23.9	16 13.7	24 20.5
	あまり望まない	0 0.0	1 5.0	8 40.0	4 20.0	7 35.0
	別室を望む	4 14.3	0 0.0	3 10.7	9 32.1	12 42.9

※1……$\chi^2=61.36$　$P<0.000$
※2……$\chi^2=41.16$　$P<0.000$

(4) 子どもへの好悪感と母子同室（表38）

子どもが非常に好きである人の割合は，東京よりも地方が，経産群よりも初産群が高かったが（表30），まだ出産を経験していない妊婦において，子どもへの好悪感と母子同室の希望に有意な連関がみられた。すなわち，子ども好きの人は，母子同室を希望し，子ども好きでない人は，母子同室をあまり望まなかったり，母子別室を希望する傾向が強い。

V 考　察

今回の調査においては，生理的な変化とともに大きな心理的，情動的変化を伴う妊娠の期間における母性意識に焦点をあてた。とくに妊婦が出産経験がない場合とすでに経験がある場合，そして現在，大都市の代表ともいえる東京に居住している場合と中小都市・農山村に住んでいる場合とを比較しながら，これらについて検討を加え，母性意識の確立と深いかかわりをもつと考えられる母子同室への意識との関連をみていった。

経産歴（初産，経産）による相違には，年齢差，出産・育児経験の有無による母性行動・母性意識の差，さらには母性以外の条件（家族構成，夫婦の役割分担，結婚生活の経験）の差などが関連している。また地方による相違は，結婚年齢，出産年齢，妊娠までの期間，こども

表38　子どもの好悪感と母子同室
（初産）

母子同室＼子どもへの感情		非常に好き	どちらかというと好き	どちらかというと好きでない	好きではない
東京※1	是非望む	12 52.2	10 43.5	1 4.3	0 0.0
	条件付で望む	53 35.3	17 51.3	19 12.7	1 0.7
	あまり望まない	4 23.5	12 70.6	1 5.9	0 0.0
	別室を望む	5 20.8	12 50.0	4 16.7	3 12.5
地方※2	是非望む	36 55.4	27 41.5	2 3.1	0 0.0
	条件付で望む	109 40.7	141 52.6	18 6.7	0 0.0
	あまり望まない	5 22.7	11 50.0	6 27.3	0 0.0
	別室を望む	8 33.3	11 45.8	4 16.7	1 4.2

※1……$\chi^2=24.08$　$P<0.001$
※2……$\chi^2=36.60$　$P<0.000$

の数などの差のほか，学歴，職業の有無，家族構造の差などが関連している。

1 妊娠の受容

妊娠の当初，その事実をどう受けとめるかは，母親になることへの受容，母性意識や母性行動の発現の上できわめて重要なことであると考えられている。

今回の調査では，自分が妊娠していると気がついた時うれしかったと答えた人は，地方が東京よりも高い割合でみられたが，有意な差ではなかった。全体的には，初産群では76.1%，経産群では61.3%がうれしかったと答え，今回の妊娠を肯定し，受容している。最近のわが国の他の研究をみると，上田ら[1]の研究では，肯定的に受けとめていた人は，妊娠初期では初産69.1%，経産62.5%，妊娠後期では初産61.0%，経産57.9%となっており，対象がわれわれの調査の東京と同じであると考えてよいので，妊娠初期はわれわれの調査の東京の結果（初産69.9%，経産60.8%）とほぼ似通ったものである。

妊娠への受けとめ方は，それが望んだものであったかどうかによっても異なってくる。今回の調査では，妊娠を望んでいた人の割合は経産群よりも初産群が有意に高かった。妊娠を望んでいた人にとっては，妊娠に気がついた時の感情がうれしかったとする人が殆んどであろうし，上述の結果と事実上対応している。大日向[2]は，同

じく東京の初産婦（平均妊娠6～7か月）を対象に妊娠中の心理について調査し，妊娠を知った時非常に嬉しかった群（44.2%）は，どちらかといえば嬉しかった群（42.9%）や困った群（12.8%）よりも，既に赤ちゃんに対し積極的な愛着を持ち，胎動に感動し，お腹が大きくなった姿に対して肯定的な感想を持つことを報告している。

このように望まれた妊娠は初産の妊婦により顕著にみられ，それが母性意識の発達と強く結びついていると思われる。

しかし，第2子以降では，家族計画的配慮その他，妊娠を積極的に肯定できない背景が全体的に強くなってくる。われわれの調査においても，経産群では，約30%の人が望んでいなかった妊娠であり，38.1%の人が困ったり，とまどいをおぼえている。

石上ら[3]は，ある地方の妊婦について調査し，望んだ妊娠と答えた人は78.9%，望まなかった妊娠と答えた人は21.1%であった（母親学級受講者では14.3%と低くなっている）と報告している。この結果について，初産，経産別に算出すると，望んだ妊娠と答えた人は，初産84.2%，経産75.0%，望まなかった妊娠と答えた人は，初産84.2%，経産75.0%，望まなかった妊娠と答えた人は，初産15.8%，経産25.0%と，経産婦が高くなっている。上田ら[1]の研究でも，妊娠に対して否定的受けとめ方をしたり，肯定・否定のどちらでもない人は，初産30.9%，経産37.5%と，経産婦の方が高い。

経産に比較し，初産の場合には，妊娠へのよろこびや積極的受容が母性意識や母性行動と結びつく背景が強いと思われるが，経産の場合には，妊娠に対する感情は多様化する背景を持ち，母性意識・行動と即応しない条件もみられてくるように思われる。

なお，花沢[4]は，母性感情について，母親の年齢とこどもへの愛着感情との関係にふれ，年齢が高い程愛着感が低下する傾向があるとし，育児の適齢性について検討する必要性を指摘している。経産のほかに，年齢的な相違も考慮すべき内容であり，今後の継続的研究の中でさらに検討を加えるべきものと考えられる。

(2) 妊娠中の不安

今回の調査によると，妊娠中自分自身のことについての不安，心配は，東京，地方ともに身体・健康上のことが最も多く，とくに地方では初産群のみならず経産群においてもこの種の不安・心配があまり低下していない。また，生まれてくる赤ちゃんについては，初産群では全体の3分の2以上の人が，生まれてくる赤ちゃんにもし異常や問題があったら，という不安・心配を主に持っており，経産群でも40%前後の人が同じ不安・心配を持っている。しかし，これはむしろ健全な心配ごとであるとも考えられる。

妊娠，出産の経験による差は当然見られるが，とくに妊婦自身の精神的不安・心配は初産群に比し経産群は3分の1に減少し，赤ちゃんを育てる自信があるかどうかの不安，心配は経産群全体の2%台に過ぎなくなっている。

初産婦における妊娠中の不安傾向については九鳩ら[5]が指摘しており，また穂垣ら[6]は，妊婦の不安に関する測定法などについて検討を加えているが，妊婦の心身上の不安，病理が産褥期やその後の育児に及ぼす影響を配慮して，妊娠中の母性保健指導が積極的にすすめられることが望まれている。

(3) 希望する出産の場所と分娩方法

今回の調査では，出産の場所については，調査対象の条件統制による差が影響としてみられた。地方に限ってみると，規模が比較的小さく，あるいは個人的つながりが強いと思われるところでの出産を予定している傾向がみられる。このことと母性意識との関連は必ずしも明瞭ではない。出産の場所を決める理由として，東京，地方ともに信頼でき安心して任せられること，自宅・実家に近いことが非常に多くあげられている。

一方，出産にあたって，どのような分娩の方法を望むかについてみると，地方別による有意差がみられた。初めての出産を前にして，苦しくても自然な状態で生みたいと望む人は，東京よりも地方の方が多かった。

この傾向は，出産する施設における設備・管理とはあまり関係なく，妊婦の意識による相違と関係のあることが示唆された。即ち，以下にふれる出産後の赤ちゃんとの接触に関する地方の差と関係が強いことが考えられた。

なお，今回の調査では，有意な差ではないにしても，経産群の方が初産群よりも，苦しくても自然な状態で生みたいと望む人の割合が高かった。花沢[4],[7]は，母親の妊娠中，分娩時の苦悩度が高い場合だけでなく，低い場合にも，その後のこどもへの愛着感情が低かったと報告している。このような分娩の状況及び出産の経験と母性との関係については，なお検討すべきことが多い。

(4) 生後間もなくからのわが子との接触

まず，出産直後できるだけ早くからずっと自分の赤ちゃんと一緒にいたいと希望する人の割合は，東京（初産群28.3%，経産群47.0%）よりも地方（初産群47.0%，経産群33.8%）が有意に高い。このことは，上述の分娩の方法と関連させて考えると，はじめて生まれてくる子

との一体感ともいうべき母性意識の発露が，地方においてより明瞭に示されているといえる。東京に居住する妊婦の中にも地方出身の人が含まれていると考えられるが，両地方の生活環境や生活意識，育児意識とともに学歴や後述する家庭・育児への結婚前の期待や子どもへの好悪感の差が示されている。

つぎに，赤ちゃんとの接触の希望は，出産を経験することにより，有意に低くなっている。先きに引用した研究[4),7)]に示されている母性意識とともに，出産を経験したことによる現実的対応の変化も含まれていよう。このことは，入院中母子別室である場合の赤ちゃんとの接触についての回答からもうかがわれる。母子別室の場合でもできるだけわが子と接触していたいと望む人は，東京よりも地方が有意に多いという上述と同じ傾向がみられるほか，経産になると，接触は授乳のときだけでよいという割合も高くなっている。

ところが一方で東京，地方ともに経産の場合でも，できれば日中はいっしょに授乳や世話をしたいと望む人の割合は，初産群よりもむしろやや増加している傾向がみられ，接触指向，非接触指向がやや両極化することは注目されるところである。

(5) 母性行動

出産を前にして，これから生まれてくる子どもへの母性的養育行動に対する希望についての回答をみると，おおおむねつぎのような母性行動の輪郭がうかんでくる。

まず，生後4週間は殆んどの人は母乳栄養で育てたいと考え，わが子への授乳は子どもの要求にあわせて与えるようにしたいと考えている人が多く，とくに出産経験のある人はその希望が強まる。深夜，疲れて眠っている時，赤ちゃんがひどく泣いたり，ぐずったりすると，多くの人はすぐ起きたり，できるだけ起きようと考えている。赤ちゃんの排便やおむつの処理は，出産，育児経験の差が明瞭に出て，未経験の場合は，約3分の1程度の人が汚ないのではないか，いやな気持がおきるのではないかと思っているが，経験者では殆んどの人がそのような気持を持たず，何のためらいもなくできる。

Luding ton-Hoe, S. M[3)] は，母性的養育の内容を mothering（授乳，おむつ替えなど）と maternicity（母親の情愛的働きかけ）に分けているが以上の調査結果をみると，一般家庭においてはいわゆる母性意識としての maternicity が，さまざまな mothering の経験によって強固なものになるという側面をあらためて示しているように思われる。この点については，今後さらに追跡的研究を行っていく予定であるが，これらを育くんでいく背景となる母性環境も又重要である。

(6) 生育歴と母性

今回の調査では，妊婦自身の母親からの愛情体験，子どもの頃の家庭的雰囲気，家庭生活や育児への期待，結婚への期待そして子どもへの好悪感など，幼少期から現在に至る迄の生活を通じて，母性にかかわる意識をみた。これらの回答から，おおむねつぎのような輪郭がうかんでくる。

殆んどの人が，母親から，愛情をもって育てられたと感じ，家庭の雰囲気もなごやかであった。ひとりっ子は非常に少ないが，これまで赤ちゃんや小さい子と接触したり，世話をした経験は少ない。多くの人は子ども好きであるが，やや年齢が若く，出産の経験のない人にこども好きの人が多い。多くの人は家庭生活や結婚そして育児に期待を持っていたが，その傾向は東京よりも地方にはっきりみられる。学歴は，地方よりも東京が高く，職業についている人は東京よりも地方に多いが，働くことと育児とを対比させると，多くの人は育児重視派に属し，かなり多くの人は自分が女性でよかったと思っている。

母性意識，母性行動とりわけ maternicity にかかわりのある女性の意識や行動は，生後間もなくから，幼少期そして思春期，青年期に至る環境・生活経験と強く結びついているといわれる。妊娠の体験は，各人の母性の連鎖の経過や結果が比較的明瞭にあらわれる時期でもある。今回の調査結果では，対象となった妊婦が母性体験において問題を擁している例がきわめて少ない。むしろ妊娠，出産経験の差や今日の社会・文化的環境を反映した年齢差，地域差からくる意識の相違の方が示されたように思われる。

柏木[9)]は，若い世代の母親には，子どもへの肯定的，積極的感情と，否定的，消極的感情の排反的両面的心理が共存していること，職業についている母親とくにフルタイムの職についている母親よりも，無職のいわゆる専業主婦・母親の方が子どもに対する否定的，消極的な感情を強く抱く傾向を持っていること。さらに母子家庭のみを対象とした学歴差でみると，低学歴の人ほど子どもへの肯定的，積極的感情が強く，否定的，消極的感情をもつ人は高学歴の人のみにみられたこと，などを報告している。

(7) 母性意識と母子同室の希望

以上にみてきた母性意識に関するさまざまな傾向は，本研究の中心的テーマである母子同室に対する妊婦の意識と強い関連があることが予想された。今回の調査では，母子同室を望む人の割合は，経産群（平均68.7%）よりも初産群（平均84.8%）が有意に高く，東京（初産

群79.4%，経産群61.4%）よりも地方（初産群87.9%，経産群75.8%）が有意に高かった。母子同室を望まぬ人は，初産群が地方12.1%，東京18.8%であるのに対し，経産群は地方22.4%，東京37.7%と約2倍であり，東京は地方の 1,6倍前後である。

この傾向は，分娩方法や赤ちゃんとの接触，そして子どもへの好悪感，家庭生活や育児に関する意識にほぼ対応している。即ち，初産群において苦しくても自然な状態で生みたいと希望する人は母子同室を強く望み，生後間もなくからまた母子別室であっても，赤ちゃんとできるだけ一緒にいたいと希望する人は，母子同室を希望し，時々又は必要な時だけ会えばよいとする人は，母子同室をあまり望まなかったり，母子別室を希望する傾向が強いということである。

また，初産群において，子ども好きの人は母子同室を希望し，子ども好きでない人は，母子別室を希望する傾向がみられた。

以上の結果はやや年齢層が若く，出産を経験していない子ども好きの妊婦の方が，できるだけわが子と一緒にいたいと望み，母子同室の希望が強いことを示している。

このように母子同室の希望が経産群よりも初産群に高い傾向があることは，上野ら[10]によっても報告されており，それによれば初産群78.3%，経産群46.3%となっている。今回の調査結果では，経産の場合でも過去母子同室を経験した人の方がその体制を望む傾向があることも示されている。ところが，その場合でも東京では母子同室を経験している人が，母子別室を望む割合は，地方よりも2倍多くみられる。前回の研究報告[11]では，母子同室の場合には，母親側の問題として，睡眠不足，不安，安静が保てないなどが指摘されている。これらのほか，病院の管理・経営・看護面などの条件，さらに妊婦の育児意識が関連していようが，地方よりも東京において，母親が子どもとの接触や同室を望まない背景についても明らかにしていく必要がある。

(8) 父性

この研究は言うまでもなく母性に焦点をおいているが，今回の調査では，妊婦の夫についての父性意識にかかわる内容についてもとりあげた。

まず，妻が妊娠していることを始めて夫に告げた時，夫のよろこびの反応はいずれの場合も妻よりも大きく，初産群では約90%，経産群においても約80%という高さであった。夫のよろこびは，父性のポテンシャルの高さを示しているともいえる。このことは子ども好きの傾向と関係していよう。子どもへの好悪感をみても，夫の方が明らかに高く，子ども好きの人の割合は東京では約93%，地方では95%前後に達している。最近の研究でも，上田らの研究報告から算出すると，妻の妊娠を肯定的に受けとめている夫の割合は，初産群では78.3%，経産群では69.5%といずれも妻よりも高い割合でみられる。平井ら[12]の研究では，1歳児の父親の90%，5歳児の父親の80%以上が子ども好きであると報告している。

つぎに妊娠中の妻への夫の配慮をみると，夫が何かと気をつかってくれると感じている妊婦は，初産群では90%を越えている。しかし，経産になるとその割合は約80%となり，中でもよく気を使ってくれると感じている妊婦は初産群の2分の1の割合にまで下がっている。

以上のことと関連するが，出産時の夫の立ちあいを希望する妊婦は初産では，東京32.9%，地方39.1%，経産では東京31.1%，地方32.0%である。他の研究と比較すると，入内島ら[13]は，分娩が始まったら夫が妻のそばにいてほしいと希望する妊婦は初産42.0%，経産35.6%であるとし，一方妻の分娩に立ちあいたいと希望する夫は初産41.6%，経産31.8%であり，今後分娩時に夫がその役割をどのように果たすべきかについて提言している。また山田ら[14]は，分娩への立ちあいを希望する妊婦は43%に対し，夫は25%であり，年齢の若い夫の方が立ちあいを希望していると報告している。

父性意識の確立やその態様には母性と同様に社会的文化的環境の影響もまた大きいが，以上のような結果は，将来妻の分娩に夫が立ちあう傾向はより高まっていくことを予想させる。諸外国の研究をみると，Gordell, Aら[15]は，分娩室で妻の出産に立ちあった夫ほど，父親としての子どもへの養育責任や役割を果たす傾向があると指摘し，Parke, K[16]は，生後数日して子どもと母親，父親が一緒にいる状況では，分娩室で立ちあった父親の場合に，父子相互作用が，母子相互作用よりも著しく多くみられたと報告している。このように分娩時の立ちあいと父性との関係の強さを示しているものが多い。

さて，以上のように妊娠中，出産時における夫のかかわりへの妻の希望・期待は経産婦になるにつれてやや低下する傾向がみられる。この傾向は夫への育児の参加に対する希望・期待という面でより顕著になる。妻が夫に何らかの育児参加を求めている割合は，初産，経産群ともに90%前後であるのに対し，実際に夫がそれをやってくれるだろうと考え，期待する割合は初産群の73%前後に対し，経産群は51%前後へと低くなっており，頼めばやってくれるだろうという，あまり期待しない人の割合がとくに多くなっている。

父性のポテンシャルとしての夫の子ども好きの傾向

と，現実の育児へのかかわりとには隔たりがみられる。父性に期待される機能のうち，育児のウエイトは今後必然的に高まることが予想されるが，今回の研究では，父性に求められる機能についての調査を含んでいないので，今後の追跡的研究を通して父性における育児の機能についてさらに検討を加えることとしたい。

Ⅳ 要 約

1981年10月から12月にかけ，全国9か所の病院，産院，保健所，助産院等（東京3か所，地方6か所）を利用した妊娠中の婦人 1,205人に対し，妊娠，出産，育児にかかわる母性意識及び出産後の母子同室の希望などについて，36問の質問項目によるアンケート調査を行なった。

有効回答とされた 1,031件（85.6%）を集計，分析した結果，つぎのような点が明らかになった。

1　望まれた妊娠は経産婦よりも初産婦に多くみられた。妊娠へのよろこびや積極的受容は母性意識や母性行動と結びつく背景が強いと考えられるが，経産婦の場合には，妊娠に対する感情は多様化し，また，出産を経験したことにより現実的対応に変化がみられ，母性意識や母性行動と即応しない条件もみられてくる。このことは，出産後の自分の子どもとの接触を希望する割合が，経産婦の方が有意に低くなるとともに，接触指向，非接触指向とに両極化すること，また一方で経産婦では，赤ちゃんの排便やおむつの処理は殆んどの人が汚ないとかいやであるとかの気持をもたず，何のためらいもなくできること，などからもうかがわれる。

2　これまでに乳幼児と接触したり，世話をした経験を持つ妊婦は全体の4分の1と少ないが，やや年齢が若く，出産の経験のない人に子ども好きの傾向がみられた。また，苦しくても自然な状態で生みたいと希望する初産婦は東京よりも地方に多く，さらに出産直後できるだけ早くから自分の赤ちゃんと一緒にいたいと希望し，母子別室の場合でもできるだけわが子と接触していたいと希望する妊婦も東京より地方が多かった。生まれてくる子との一体感ともいうべき意識は，地方においてより明瞭に示されている。

3　母子同室を望む人の割合は，初産群が経産群よりも，地方が東京よりもそれぞれ有意に高く，初産群では，子ども好きの人は母子同室を希望し，子ども好きでない人は母子別室を希望する傾向がみられた。しかし経産婦であっても過去母子同室を経験している人はその体制を望む傾向があることも示された。

母子同室の希望を母性意識とのかかわりでみると，苦しくても自然な状態で生みたいと希望し，また生後間もなくからできるだけわが子と接触していたいと希望している妊婦，やや年齢層が若く，出産を経験していない子ども好きの妊婦に母子同室を希望する割合の高いことが示されている。

母子同室制の諸条件を整えることにより，初産婦とともに経産婦の母子同室の希望は一層高まることが予想された。

4　あわせて母性意識の適齢性及び母性意識とかかわりのある父性意識について，今後関連してさらに検討する必要性が認められた。

引用文献

(1) 上田礼子，小沢道子，平山宗宏，池田紀子，中川礼子「妊娠・出産・産褥期の適応行動 (1)妊娠の受容」母性衛生 22巻1号，1981

(2) 大日向雅美「母性意識の発達に関する研究 (2)妊娠中から出産後5か月までの変化について」 日本教育心理学会第20回論文集，1978

(3) 石上孝子，佐藤延子，鈴木フミ，加藤敬三「妊娠中の母性心理に関するアンケート調査」 母性衛生 22巻1号，1981

(4) 花沢成一「妊娠・育児による母性感情の発達に関する一考察」 日本大学人文科学研究所紀要 20号，1978

(5) 九鳩勝司，村井憲男，佐藤俊昭，大山正博「妊産婦の心理的研究 (1)妊婦の情動的特性」 精神身体医学 6巻3号，1966

(6) 穂垣正暢，千賀悠子，沢田啓司，高橋種昭，中一郎 福島和夫，佐々木正美，本多裕，岡崎裕士，太田昌孝 近藤健文，中原俊隆「都市生活における妊婦の精神衛生（第2報）」 日本総合愛育研究所紀要 13集，1977

(7) 花沢成一「妊娠時苦悩度と母性感情との関係」日本教育心理学会第20回総会論文集，1978

(8) Ludington-Hoe, S.M. "Postpartum : Development of Maternicity" American J. of Nursing, Vol 77 №.7，1977

(9) 柏木恵子「現代の母性意識—世代による変遷及び母親の職業との関連を中心に」 母子研究 3号，1980

(10) 上野雅清，高久武子，矢野妙子，滝口美也子，中村光子「母児異室から同室への諸問題」母性衛生 16巻2，3号，1975

(11) 高橋悦二郎，堀口貞夫，千賀悠子，宮崎叶，加藤忠明，網野武博，萩原英敏，藤井仁「母子同室制に関す

る研究①母子同室制の実態調査」日本総合愛育研究所紀要 17集，1981
(12) 平井信義，千羽喜代子，今井節子「母性愛の研究」同文書院，1976
(13) 入内島明美，唐沢陽介「妊娠・分娩と夫の役割 第1報～第2報，」助産婦雑誌 32巻6号，33巻3号，1978～1979
(14) 山田明美，竹岡政子，田上典子，吐山ムツ＝「父性の意識と周産期における行動調査」 母性衛生 21巻2号，1980
(15) Cordell, A., Parke, R. D. & Sawin, D.B. "Fathers' views on fatherhood with special reference to infancy" Family Relations, No. 29, 1980
(16) Parke, R. D. "Father-infant interaction" in Maternal attachment and mothering disorders : A round table" Johnson & Johnson Co. 1974

Study on Rooming-in System : Consciousness of Motherhood and Willingness to Rooming-in System in Pregnant Women

E. Takahashi, S. Foriguchi, Y. Chiga,
K. Miyazaki, T. Kato, T. Amino, H. Hagiwara
& H. Fujii

Second report of this study includes the result of analysis concerning the consciousness of motherhood and the willingness to the maternal and child rooming-in system in 1,031 pregnant women, 600 primiparous (219 in Tokyo area and 381 in local area) and 431 multiparous (212 in Tokyo area and 219 in locrl area).

Significant findings were as follows ;

1. Pregnancy was more wanted by primiparous women than by multiparous ones. Consciousness and attitudes concerning pregnancy and motherhood seemed to be diversified in multiparaous women, in whom, for instance, such tendency like towards poles asunder to early contact oriented or non-early contact oriented with their babies just after giving birth was shown.
2. Rather younger and/or primiparous women showed the liking for children, and they also hoped natural childbirth, although they supposed to meet suffering pain at birth.

   Women, who hoped natural birth and to have more times to stay with their babies in case of rooming-out system, were seen more in local area than in Tokyo area.
3. Results described above were connected with the willingness to maternal and child rooming-in system. Women who have willingness to rooming-in system were seen more in them who were rather younger and primiparous, liked children, hoped natural child-birth and hoped early contact with their babies. Women in local area had more willingness to rooming-in system than those in Tokyo area.

   While, the result that multiparous women who had once gone through rooming-in system were also willing to do so again suggested the importance of this system which will probably have somewhat keypoint for the optimum consciousness and the attitude of motherhood.

A つぎの質問に数字で、またはあてはまる項目に○印をつけてお答えください。

1 あなたの年齢 ： 満（　　）歳

2 あなたの学歴 ： 1 中学　2 高校　3 専門学校　4 短大　5 大学以上　6 その他
（卒業、中退のほか在学中も含む）

3 あなたの職業 ： 0 なし　1 あり

SQ3-1 お仕事の内容（次の中から該当する番号に○印をつけ。お仕事の内容を具体的に〔 〕内にご記入ください。）
1 事務従事（一般事務、タイピストなど）……〔　　〕
2 販売従事（小売、卸売、飲食店主、保険代理、不動産仲介など）……〔　　〕
3 専門的・技術的職業従事（技術者、教員、医師、音楽家、看護婦、保母など）…〔　　〕
4 管理的職業従事（管理的公務員、会社・法人の役員など）……〔　　〕
5 サービス職業従事（料理人、理・美容師、飲食店勤務など）……〔　　〕
6 技能工・生産工程従事（機器組立、洋服仕立、印刷・製本、飲食料品製造など）…〔　　〕
7 農林・漁業従事……〔　　〕
8 その他の職業に従事……〔　　〕
SQ3-2 勤務場所：1 自　宅　2 自　宅　外　3 その他〔　　〕
SQ3-3 勤務時間：1 フルタイム　2 パートタイム　3 その他〔　　〕

4 親との同居 ： 1 夫の親と同居している　2 自分の親と同居している　3 親と別居している

SQ4-1 あなたのおすまいと親御さんのおすまいとの距離
1 比較的近くに住んでいる　2 日帰りできるところに住んでいる　3 遠い所に住んでいる

5 出産の経験 ： 0 なし　1 あり（　）回

6 現在の妊娠週数 ： 満（　）週

B つぎの質問についてあてはまる項目に○印をつけてください。

1 妊娠に気づいた時は、どういう感じでしたか。
1 うれしかった
2 うれしかったが、色々な事情・理由でとまどいがあった
3 色々な事情・理由で困った気持になった
4 産みたくなかったので、うれしくなかった

2 妊娠していることを初めてご主人に告げた時、ご主人はどう感じたと思いますか。
1 うれしそうで、とてもよろこんでくれた
2 うれしそうだったが、色々な事情・理由で心底からよろこんではいないようだった。
3 今のところ産む予定はなかったので、うれしそうではなかった
4 とまどい、困っているようだった

3 今回の妊娠は望んだ、あるいは計画したものでしたか。
1 望んでいた
2 計画通りだった
3 まだ望んでおらず、今回は早すぎた
4 産むつもりはなく、望んでいなかった

4 妊娠中の健康はいかがですか。
1 非常に良い
2 大体良い
3 どちらかというと悪い
4 非常に悪い

5 妊娠や出産について、心配や不安がありますか。
1 な い
2 あまり考えたことはない
3 あ る ⟶

SQ5-1 あると答えた方は、その内容についてあてはまるものにいくつでも○印をつけ、〔 〕に自由にご記入ください。
1 経済的なこと　〔　　〕
2 生活環境のこと　〔　　〕
3 身体上、健康上のこと〔　　〕
4 精神的なこと　〔　　〕
5 その他　〔　　〕

6 生まれてくる赤ちゃんのことについて、心配や不安なことがありますか。
1 な い
2 あまり考えたことはない
3 あ る ⟶

SQ6-1 あると答えた方は、その内容についてあてはまるものにいくつでも○印をつけ、自由にご記入ください。
1 もし異常、問題があったら　〔　　〕
2 育てる自信があるかどうか　〔　　〕
3 回りの人の理解があるかどうか〔　　〕
4 その他　〔　　〕

7 妊娠中ご主人は何かと気をつかってくれますか。
1 よく気をつかってくれる
2 どちらかというと気をつかってくれる
3 どちらかというと気をつかってくれない
4 あまり気をつかってくれない

8 どういうところで出産する予定ですか。またそれはなぜですか。
a 出産場所（ひとつだけ○印をつけてください。すでに決めている病院や産院があればその名前をお書きください。）
1 病院で〔　　〕　2 産院で〔　　〕
3 診療所・開業医で　4 母子健康センターで　5 助産所で　6 自宅で
b その理由（□内に、最も大きい理由には1と、次に大きい理由には2と、3番目の理由には3と、3つだけ数字を記入してください）
1 自宅にちかいから……□
2 実家にちかいから……□
3 信頼でき安心して任せられるから……□
4 衛生管理や設備が整っているから……□
5 わずらわしいことを気にしなくてもよいから……□
6 何かと援助してもらいやすいから……□
7 経費の上で問題がないから……□
8 自分の力だけで産んでみたいから……□
9 その他……□

9 どういう状態での出産を望んでいますか。
1 薬物による無痛分娩を望む
2 薬物によらない無痛分娩を望む
3 苦しくても自然な状態で産みたい
4 病院などの方針に任せる
5 特にない

10 出産の時、ご主人が立ちあうことについて、どう思いますか。
1 是非立ちあってほしい
2 できれば立ちあってほしい
3 できれば立ちあってほしくない
4 絶対立ちあってほしくない
5 夫の意志に任せる

11 出産直後から、ずっとご自分の赤ちゃんといっしょにいたいと思いますか。
1 できるだけ早くからいっしょにいたい
2 自分が疲れていたり、赤ちゃんの健康や感染が心配だが、いっしょにいたい
3 自分が疲れていたり、赤ちゃんの健康や感染が心配なので、時々会えればよい
4 退院するまで必要な時だけ会えればよい
5 退院するまで病院に任せて、とくに会わなくてもよい

12 現在、病院によってはお母さんと赤ちゃんとの最初の出合いを大切にし、その後の母子間の接触や交流をできるだけ配慮するため、入院中お母さんと赤ちゃんが同じ部屋にいる体制をとっている場合があります。これを母児同室制といいますが、この母児同室制についておたずねします。
a 母児同室の希望
1 その体制を是非望みたい
2 その体制で、母児の健康を十分に配慮してくれるのであれば、それを望む
3 その体制では、母児の健康を十分に配慮してくれるかどうか心配であり、あまり望まない
4 自分もくつろげず、疲れるだろうから別室を望む

すでにお子さんをお産された経験のある方におたずねいたします。

b　母児同室制の経験

1　母児同室制を経験したことがある
2　母児同室制を経験したことはない
3　その他〔　　〕

13　入院中、お母さんとご自分の赤ちゃんとが別の部屋の場合、ご自分の赤ちゃんとどの程度いっしょにいたいと思いますか。

1　授乳のときだけでよい
2　授乳のときだけでなく、赤ちゃんに話しかけたり世話をするときもほしい
3　1日に何回も会うときがほしい
4　できれば日中はいっしょにいて授乳や世話をしたい
5　病院などの方針に任せる

14　生まれてくる赤ちゃんに生後約4週間は、どのような栄養法をとろうと考えられていますか。

a　栄養法……ひとつだけ○をつけて下さい

1　是非母乳にする
2　なるべく母乳にしたい
3　母乳、人工乳の混合乳を考えている
4　なるべく人工乳にしたい
5　是非人工乳にする
6　どちらでもよい

b　理由……いくつでも○をつけて下さい

1　自然であるから
2　医学的に安心だから
3　栄養上よいから
4　スキンシップがはかられるから
5　乳房の形がくずれるから
6　PCBなどの汚染が心配だから
7　仕事に従事するから
8　自分がそうだったから
9　その他〔　　〕

15　どのような授乳の仕方をしたいと思いますか。

1　規則的に与えるよりも、子どもの要求にあわせて与えたい
2　どちらかというと、規則よりも要求を大切にしたい
3　どちらかというと、要求よりも規則を大切にしたい
4　きちんと時間を決めて、規則的に与えたい
5　どちらでもよい

16　深夜、疲れて眠っている時赤ちゃんがぐずったり、ひどく泣いたりした場合、どうなさろうと思っていますか。

1　すぐ起きてあやしたりする
2　眠っていたり疲れていると起きられない時もあるだろうが、できるだけ起きる
3　あまり長かったり、ひどい時は起きる
4　むしろ起きないでいる

17　赤ちゃんの排便やおむつの処理について、どう思いますか。

1　何のためらいもなくできる
2　汚ないとかいやな気持はおきるだろうが、しなければいけない
3　しなければいけないと思うが、あまり手をかけないですむのならそれにこしたことはない
4　汚ないし、いやな気持がおきるので自分ではできない

18　ご主人もいっしょに育児に参加することについて、どう思いますか。

a　あなたご自身の考え

1　全面的に参加すべきである
2　いつもではなく、必要な時には夫に参加してもらいたい
3　自分だけでやり、夫には余計な心配をかけたくない
4　夫の意志に任せる

b　ご主人の考え

1　全面的にやってくれるだろう
2　必要な時にはすすんでやってくれるだろう
3　頼めばやってくれるだろう
4　夫はやってくれないと思う

19　あなた自身は、赤ちゃんの頃どのような栄養法で育てられましたか。親の話やご自身の母子健康手帳などからお答えください。

1　母　乳
2　混合乳
3　人工乳
4　わからない

20　あなたは、おかあさんから愛情をもって育てられたと思いますか。

1　全くそのように思っている
2　どちらかというとそう思っている。
3　どちらかというとそうは思っていない
4　全くそのように思っていない

21　あなたは、こども時代何人きょうだいといっしょに育った経験がありますか( )内に数で記入してください。

1　兄(　)人　2　姉(　)人　3　弟(　)人　4　妹(　)人

22　あなたの育ってきた家庭はどのような雰囲気でしたか。

1　とてもなごやかであった
2　どちらかというと、なごやかであった
3　どちらかというと、あまりなごやかではなかった
4　全くなごやかではなかった

23　あなたは、結婚するまでに赤ちゃんや小さいお子さんと接触したり、世話をした経験をお持ちですか。

1　保母、幼稚園の教諭、看護婦などの仕事をとおして、よく赤ちゃんや小さい子を世話した経験がある
2　日常生活をとおして、よく赤ちゃんや小さい子を世話した経験がある
3　少しではあるが、赤ちゃんや小さい子を世話した経験がある
4　赤ちゃんや小さい子と接触したり、世話をした経験がない

24　あなたは、結婚前から家庭生活や育児について期待や夢を持っていましたか。

1　強く持っていた
2　どちらかというと持っていた
3　どちらかというとあまり持っていなかった
4　全く持っていなかった

25　現在の結婚は望んでいたものでしたか。

1　夫ともども非常に望んでいた
2　自分は望んでいたが、夫は必ずしもそうではないかもしれない
3　自分はあまり望んではいなかったが、夫は望んでいた
4　夫ともども別に望んでいたものではなかった

26　あなたは、結婚して何年、何ヵ月になりますか。

1　6ヵ月未満　2　6ヵ月～1年未満　3　1年～2年未満　4　2年～3年未満
5　3年～4年未満　6　4年～5年未満　7　5年～10年未満　8　10年以上

27　あなたは、子ども好きですか。

1　非常に好きである
2　どちらかというと好きな方である
3　どちらかというと好きな方ではない
4　好きではない

28　あなたのご主人は、子ども好きですか。

1　非常に好きである
2　どちらかというと好きな方である
3　どちらかというと好きな方ではない
4　好きではない

29　あなたは、家で子どもを育てることと社会に出て働くことのどちらを望みますか。

1　家で子どもを育てることが大切なのでそうしたい
2　家で子どもを育てることが大切だが、現実には働くこともあるだろう
3　家で子どもを育てることも、社会に出て働くこともともに大切なので、実際にも両方を考えていきたい
4　社会に出て働くことが大切だが、現実には家で子どもを育てていくことも考えていかなければならないだろう
5　社会に出て働くことが大切なのでそうしたい

30　あなたは、女性であることをどう思っていますか。

1　女性でよかったし、誇りに思っている
2　どちらかというと、女性でよかったと思っている
3　どちらかというと、女性でない方がよかったと思っている
4　女性でない方がよかったと思っている